

■第1回えべつ未来市民会議 三好市長あいさつ

第1回えべつ未来市民会議にあたり、一言ごあいさつ申し上げます。この度、皆様にはえべつ未来市民会議の委員に快くご承諾いただき、誠にありがとうございます。

また、本日は仕事を終えてから、お足もとが悪く寒い中、ご出席いただき重ねてお礼申し上げます。

本来であれば、お一人お一人皆様方に委嘱状をお渡しすべきところですが、限られた時間ですので、少しでも多くの時間ご論議いただきたいとの思いがございまして、大変恐縮でございますが、机の上に委嘱状を置かせていただきました。ご容赦をお願い申し上げたいと思います。

この度のえべつ未来市民会議は、平成26年度スタートの新しい総合計画の策定にあたりまして、自治基本条例の理念に基づきまして、市民の皆様と一緒に計画づくりを進めるという考え方で取り組んでおります。

今回の新しい総合計画は、人口や市民協働という観点で見ますと、新たな観点での計画の策定になると考えています。例えば、人口ということでは、前回の平成7年度から平成16年度までの総合計画においては、15万人の都市プランというものをもって、計画をたてていました。当然、すべては人口増を伴っての右肩上がりでした。当時から少子高齢化ということはすでに言われておりましたが右肩上がりの計画でした。

現計画は、平成16年度から平成25年度、来年度までの計画ですが、この計画におきましても、その根底には少子高齢化、人口減少もありましたが、策定当時はまだまだ人口が増えている状況でした。平成17年の125,601人が江別の人口の最高ピークでしたので、現計画は人口が増えている状況での計画策定でした。今回の計画では、人口が減ることが現実問題としてあるわけです。しかも少子高齢化が伴っているということから見ますと、社会構造が変わった新たな観点での計画策定になるのではないかと考えております。

もう一点が、策定にあたって市民協働、市民の皆様と一緒に計画をつくらうという観点です。自治基本条例が平成21年7月に制定されていますが、その自治基本条例に基づいて、はじめて今回の計画がつくられることとなりますので、新たな観点での進め方、取り組みが必要であると考えおります。

そのほか、昨年は震災がありましたことを考えますと、当然、今回の計画では災害に強いまちづくりをしなければなりませんし、自助・共助・公助の考え方なども一段と強くなることと思っております。

そして、環境問題では、地球温暖化を意識した環境配慮型の社会、さらには地方分権の考え方など社会情勢が大きく変化している状況となっております。

また、財政の問題では、皆様方も御承知かと思いますが、国の財政は大変な借金財政です。江別の歳入の4分の1近くは地方交付税に頼っておりますので、その地方交付税が国の財政状況でどう変わっていくのかということも今後問われるところになります。

こうした様々な環境の中、厳しい財政状況のもとでの計画策定となりますので、新しい総合計画にあたりましては、このような状況に注意深く、しかも柔軟に対応していく必要性が重要と考えております。

いずれにしましても、市民の皆様が将来にわたって安心して住み続けられる、そういう街の方向をこの計画で示していきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

委員の皆様方には長期間にわたっての計画検討ということで、ご迷惑をおかけすることになりますけれども、皆様方の活発なご意見を頂戴いたしまして、市民が安心できるまちづくりのための計画をつくってまいりたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。